

第6表 接木植物の塊根におけるデンプン歩留り

台木	接ぎ穂	沖 100	縄 号	コガネ センガン	タ マ ユ タ カ	農 林 1 号	ツ ル センガン	関東97号	平均値	標準偏差
沖縄100号		13.3		12.9	13.7	12.5	13.8	13.2	13.2	0.5
コガネセンガン		18.5		18.6	20.7	17.7	20.0	18.9	19.1	1.1
タマユタカ		14.2		16.8	16.0	15.8	16.8	15.9	15.9	1.0
農林1号		15.3		15.8	16.3	15.3	16.4	17.4	16.1	0.8
ツルセンガン		19.0		15.6	15.1	15.6	19.6	16.6	16.9	1.9
関東97号		23.0		21.5	22.1	23.4	24.8	24.6	23.2	1.3
平均値		17.2		16.9	17.3	16.7	18.6	17.8	17.4	
標準偏差		3.6		2.9	3.3	3.7	3.8	3.8		

のと思われる。沖縄100号は、生育後半において落葉数が多いこと、農林1号はつるの伸長が著しく、茎葉が過繁茂になりやすいことが特徴としてあげられる。

塊根乾物重については、上述した生体重と同様な傾向を示した。関東97号台木植物の切干歩合は35.1%と大きい値で、沖縄100号台木植物で22.6%と小さい値を示し、台木の種類の違いによる差異は大きかった。接穂の種類による切干歩合の差は小さく、その標準偏差値は大きかった。

でん粉重は、塊根の生体重、塊根の乾物重と同様な傾向を示した。すなわち、主にでん粉重は台木の種類と関連するが、一部接穂の種類と関係する。でん粉歩留りに関しては、台木の種類の差が顕著で、関東97号台木植物の平均値は23.2%で、沖縄100号台木植物の値は13.2%であった。接穂間の差は小さく標準偏差値は大きい値を示している。関東97号は「ハイスターチ」と命名され、農林登録お

よび種苗登録がなされた。

これらの結果から、高でん粉多収の原料用品種の育成には、でん粉含量に対する選抜は塊根中のでん粉含量のみで行って良く、塊根収量に対する選抜は主として塊根重と一部地上部の形質に対しても行う必要があることを示している。

⑩ おわりに

甘しょの接木植物における¹⁴C-光合成産物の転流方向および転流量を調べた結果から、転流方向あるいは転流量の決定には、接穂の性質のみでなく、台木の性質 (sink strength) も深く関係していることが明らかにされた。このようにしてみると、光合成産物の転流は供与と受容の両器官の間で行われている調節的色彩の濃い生理作用であると考えられる。作物生産の向上のためには、光合成産物の転流が収穫の対象となる器官へ円滑に行われることが望ましいといえる。

常識法話

◆ 役員会 ◆

アメリカの電々公社などは、株主が266万人もいるという。だから実際の経営は“船頭多くして…”のたとえではないが、株主総会よりも取締役会が重んぜられているのもうなづける。この傾向は、わが国でも同じであるが、理の当然といえよう。六法全書をみるまでもなく、この株主総会とか取締役会という場合の「会」とは、人の集まりであり、会議である。国会というときは国会議員の集まりであり、その会議ということになる。

本題に戻って、いまこの役員会を通じて最も

困った問題の一つは、親会社から多くの資本を引き出した子会社・関係会社の存在である。利益もあがらずトラブルは多いこれらの会社に、冷静な鉄槌を打ち込むのは、会社では役員会つまり事業遂行の意思決定機関としての取締役会の早急の役目である。

事業経営というものは、ごくふつうの平常で何の心配もないときに次の手をくたしておくべきだし、また考え過ぎて取引先までも刺激するようなことがあってはならない。

役員会としては、こうしたことに細心の注意を払う必要があるわけだ。